

第30回 ウルトラ FM 番組審議会

1 開催年月日

令和8年3月27日(金) 10:00~11:30

2 開催場所

須賀川市民交流センターtette ルーム 4-1

3 委員の出席

委員総数 6人

出席委員数 4人

(1) 出席委員の氏名

堀江祐介 (委員長)

安藤清美 (副委員長)

村上香織 (書面出席)

横山知佳 (書面出席)

(2) 欠席委員の氏名

久保木彩歌

真壁正人

(3) 放送事業者側出席者

柳沼宏延 (放送局長)

4 あいさつ

(堀江委員長)

商店街ではひな祭りのイベントが終了し、これから桜の季節を迎え、さらなる賑わいが期待される。須賀川市においては、歴史に根ざした取組を大切に位置づけ、各種事業を展開していることに誇りを持っている。既存の地域資源を有効に活用していくことは極めて重要である。また、4月には端午の節句を迎えるなど、年間を通じて季節感あふれる事業を実施している。現在は、NHK連続テレビ小説の誘致活動にも取り組んでおり、地域の活性化につながる動きとして注目されている。ウルトラ FM においても、引き続き地域情報の発信に努め、魅力ある番組づくりを推進していただきたい。

5 議題

(1) 東日本大震災特別生放送番組「未来へつなぐまち須賀川 15年」(3/11 14:00~15:00 放送)

(2) その他

6 議事の概要

- (1) 東日本大震災特別生放送番組「未来へつなぐまち須賀川 15 年」(3/11 14:00～15:00 放送)について事務局からの概要説明の後、意見聴取を行った。

(安藤副委員長)

今回放送された東日本大震災特別生放送番組は、全体として非常に優れた番組構成であった。特に、ナビゲーターを務めたウルトラ FM パーソナリティの武藤なみ氏のコメントは印象的であり、震災当日の様子を的確な言葉で伝えることで、当時の記憶を想起させる内容となっていた。

また、番組内で取り上げられた高校生へのインタビューに対する受けコメントや、震災に関する新聞記事の紹介、防災士資格を取得した女性の発言に対する受け止め方も適切であり、全体として丁寧な構成がなされていた。

さらに、ラジオ聴取者を意識した番組進行により、非常に聞きやすい内容となっていた点も評価できる。

番組の最後に放送された、大黒摩季氏が作詞を担当し須賀川第一小学校の児童が歌う震災復興応援ソング「希望のうた～カワセミのように～」は、番組を締めくくる楽曲として非常に効果的であった。

(堀江委員長)

安藤副委員長の発言にもあった震災復興応援ソング「希望のうた～カワセミのように～」は、須賀川第一小学校にとどまらず、須賀川市全体の歌として位置付けられてもよいと感じるほど優れた楽曲であり、ウルトラ FM で放送された意義は大きい。

また、本番組でインタビューを受けた高校生は震災当時 2～3 歳であり、記憶のない世代に対しても当時の状況を伝える取り組みは非常に重要である。

特に、ウルトラ FM において毎年震災関連番組を継続して放送することは、聴取者に防災意識を喚起し、震災への関心を持ち続ける契機となるものであり、その意義は極めて大きい。

ラジオという媒体を通じたこうした取り組みは、震災を経験していない世代が防災士を目指すなど、次世代への意識醸成にもつながると考えられる。年月の経過とともに風化が懸念される中、当時の状況を継続的に伝えることは、防災意識の再認識という観点からも非常に有意義な内容であった。

(村上委員)

これまでにあまり見られなかった、震災当時に幼少期であった世代の視点からの内容であり、新たな切り口として非常に良かった。特に、当時 2 歳であった現在の高校生が、震災当時のことや将来について幅広く語る様子は印象的であり、大人とは異なる受け止め方が、司会者の的確な進行によって分かりやすく伝えられていた。

また、若い世代が農業に従事しながら語る内容にも関心を持った。震災当時、商工会議所女性会の活動で神楽坂において福島県の PR を行った経験があるが、番組で紹介された内容は当時の状況をよく表しており、当時はさらに厳しい反応もあったことを思い起こした。

震災から 15 年が経過した現在でも、その影響が残っている現状を考えると非常に残念であるが、日常生活の中では感じにくくなっている全国的な影響について改めて認識する機会となった。本放送を通じて、聴取者が「現在も影響が続いているのか」と考えるきっかけになることを期待したい。

加えて、須賀川第一小学校の復興応援歌が紹介され、その制作経緯も説明された点は良かった。黙とうの時間も設けられており、全体を通じて進行の難しさもあったと推察されるが、丁寧に構成された番組であった。

(横山委員)

震災から 15 年という節目にふさわしい、非常に充実した内容の番組であった。パーソナリティの武藤氏は、出演者一人ひとりに寄り添いながら的確なコメントと答えやすい質問を行い、番組全体の質を高めていた。

特に、震災当時 3 歳前後で記憶がほとんどないと思われる世代が、自らの言葉で率直な意見を述べ、自身の将来や社会への発信につなげようとしている姿には強い感銘を受けた。中でも、「信頼できるはずの親が慌てている様子が怖かった」という発言は非常に印象深く、当時の不安を象徴するものであった。

また、震災当時は SNS や地域メディアの情報が現在ほど充実しておらず、情報取得に苦労した経験を踏まえると、ウルトラ FM のような地域メディアの重要性と必要性を改めて認識する機会となった。

さらに、番組に登場した高校生が、自身の学びや経験を通じて震災の記憶を次世代へつなごうとする姿勢や、防災士資格取得など主体的に行動する若者が地域にいることは非常に心強い。

加えて、須賀川第一小学校の復興応援ソングが音源として残され、放送されたことも大きな意義がある。本番組は記録としても価値の高い内容であり、非常に優れた放送であった。

(柳沼局長)

ウルトラ FM では、毎年 3 月 11 日に合わせて東日本大震災に関する特別番組を放送し続けている。これは、ウルトラ FM の開局のきっかけが震災により情報を発信するために開局した臨時災害 FM をきっかけにしたものだからで、これからも震災当時の記憶を伝えつつ、防災を意識した番組を制作し続けたい。

(2) その他

なし

7 報告

事務局の柳沼局長から、4 月の番組改編について説明が行われた。

8 審議会の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

・特になし

9 審議会の意見の概要の公表

公表方法：自社ホームページへの掲載

公表内容：本議事録

公表年月日：令和8年3月31日

10 その他の事項

次回の放送番組審議会日程について

- ・令和8年6月を予定。開催日は会長と相談の上決定し、委員に連絡する。